

<事業者の概要>

1. 所在地：徳島県三好郡東みよし町足代890番地3
2. 代表者：代表取締役 谷藤 哲弘
3. 主な品目：牛肉（和牛）
4. 主な輸出先国：マレーシア、インドネシア等
5. 事業概要：2015年2月設立。肉牛のと畜解体、部分肉・加工肉の製造及び販売・輸出、肉牛の内臓及び副生物の販売。

【輸出の取組内容】

- 2016年3月にハラール対応の食肉処理施設を整備。
- 2016年12月、インドネシア向け牛肉輸出処理施設の認定を受け、輸出を開始。2017年11月、マレーシア向け日本産牛肉輸出が解禁となったことを契機にマレーシア向け牛肉輸出処理施設の認定を受け、同国向け輸出を開始。
- 2017年～2019年に在マレーシア日本大使公邸で開催されたレセプションに参加し、多数の来賓者に和牛を提供。
- 台湾、タイ、ベトナム、ミャンマー、マカオ、シンガポール、サウジアラビア、UAE等向け牛肉輸出処理施設の認定を取得。
- 2020年、現地からのインターネット販売の需要が増加し、輸出額が大幅に伸びた。

【取組経緯】

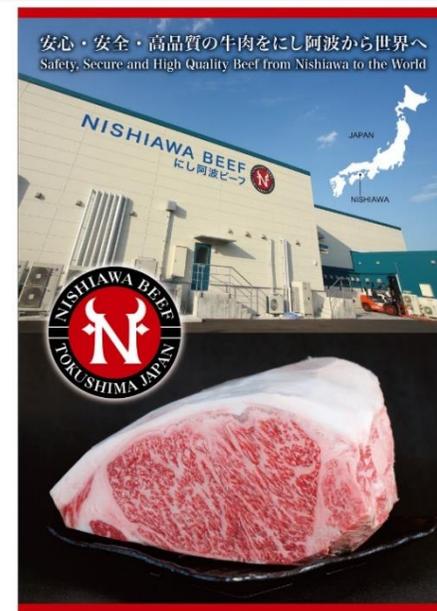
- インドネシアでハラールの牛肉を取り扱うための知識を習得。
- 2016年ハラール対応の食肉処理施設を整備し、マレーシア、インドネシア向け牛肉輸出処理施設の認定を受け輸出を開始。

【課題と対応方法】

- ハラールへの厳格な対応
→と畜免許を持つムスリムを8名採用し、直接ハラールと畜を行う。
現地派遣元とも綿密にコミュニケーションを図り、円滑な人員交代等に対応するとともに、週単位での作業サイクルの実施や福利厚生
の充実により、ムスリムの働きやすさ・ゆとりを確保。
- 食肉加工技術の対応
→現地で和牛の美味しさを表現する「肉の切り方」を実演。
→食肉加工の技術指導に対応できる人材の確保。
- 他の施設との差別化・付加価値の向上
→マレーシア、インドネシア向け牛肉輸出において認定を受けた施設
は国内に2箇所という優位性を活かす。

【今後の事業展開】

- ✓ 和牛需要が拡大しているアジアのムスリム市場において、国や地方公共団体の協力を得て、更なる販路拡大を目指す。
- ✓ ハラール認証取得を必須としない国のイスラム教信者へのハラール和牛需要の掘り起こし。
- ✓ マレーシアにおけるTPP、インドネシアにおけるRCEPの活用を始め、多国間貿易での手続に順次対応し、今後の輸出に取り組む。



にし阿波から世界へ

【実績】

輸出額(百万円)		輸出国・地域割合 (%) 2023年	
2021年	929	マレーシア	86.5
2022年	845	インドネシア	11.6
2023年	1,067	その他	1.9